



胡蝶



特別
千12
3643
16(19)



胡蝶

第ニア
春ノ所
山路ハ
奥ノ山居ノ僧
位ハ
我公
洛陽ノ
旧跡ヲ一見セ
ヤ



故
梅若誠太郎氏
昭和四年正月
梅若重占氏
寄贈

吉野乃さる孫の之雪まゝとてく
 花をさきあるも乃吹く象
 乃山あへてうむるや三笠山
 志きらあまの海をあらけの志
 三つらさきの道まぐよまの志都
 又急なまきりく急行る。程あり
 却よ急てふは河を人上露ひて久へ

一乃大宮とゆは戸の心静よ一見せ
 ちやと思ふは又是成可を乃見
 ぐ有き古宮乃軒乃ひも
 も昔しててはあぬ乃
 草被より有可あり
 又車より飛者ちとりあは禁うも
 のひまよりならむとす乃

とよ色しとある梅花乃今をこころ

いふては立寄あつめを中と思ひ

おしく僧はいづくと思石てが梅を

縁ちあひる我々 不思議の人ありん

こ入ぬやつまより女性一人ありま

我よりとらき娘よそや俗家と

いづくあつて我々 梅はさうかん

事あらはゆまひうやきまは所

いづくよりありあ人あるぞ

甲 是れ和列三吉野の奥よ山居の去

あらくぬが始て却よよりさ

いそてんあき尸こぬは力し家

昔よりゆへる古宮よて大内を

ちろくありあるれ梅を雲乃入

人言とふ詩奇管絃乃に遊をも
よめ絶き花乃に依あ
彼とせむらくは
可うるはるはる花乃名を
今もる力乃好くさよ
名成人そは
名可の人とせま海

久紅きるまほき
大心あまの
わし
花さるり心
梅の香ふむ
あつてぬら
年を始る古
名可めすま
甲丸
色好むき
色うえら
是の都乃
色好むき
甲丸
月ウク
好望若山

田葉

田

古歌
昔^三あひ^一し^一の^一神^一名^一さ^一ら^一ぶ^一あ^一ま^一の^一石^一
乃^一浦^一ま^一ま^一あ^一の^一月^一乃^一こ^一あ^一れ^一し^一と^一さ^一
に^一定^一れ^一あ^一ま^一の^一身^一を^一さ^一ら^一ぶ^一や^一く
我^一く^一洲^一宮^一乃^一禊^一ぎ^一又^一乃^一乃^一の^一名^一さ^一
委^一ね^一お^一ろ^一ろ^一と^一は^一の^一つ^一と^一中^一く
み^一く^一あ^一く^一や^一思^一存^一き^一ら^一こ^一つ^一り^一あ^一つ^一
誠^一は^一ま^一れ^一ん^一る^一あ^一く^一し^一我^一茶^一草^一乃^一

花^一よ^一心^一を^一そ^一め^一指^一お^一遊^一ぶ^一身^一あ^一く^一あ^一き^一た
流^一き^一習^一れ^一あ^一る^一身^一こ^一あ^一ど^一や^一し^一昔^一より
梅^一花^一み^一え^一ん^一な^一き^一の^一ち^一と^一秋^一ふ^一ら^一る^一雲^一
し^一た^一り^一あ^一の^一泪^一乃^一色^一し^一く^一身^一さ^一す^一の^一
梅^一を^一よ^一縁^一あ^一ら^一し^一乃^一也^一空^一や^一色^一よ
そ^一こ^一花^一よ^一あ^一き^一行^一あ^一く^一乃^一乃^一さ^一ら^一ぶ^一
ま^一の^一を^一よ^一ま^一よ^一小^一蝶^一乃^一夢^一乃^一い^一ら^一ぶ^一

用蝶

ありけりいさむらひのまはるる秋をへて草葉の
 花よぬりぬりてよとまきて花
 みのちかきとむもぬ所ありあき
 ちの梅もよ縁あり身をあきらに望
 ちうて僧よをばさうりあり
 ぬへある法乃ちらも望乃花をえ
 おをねむあり傳へきく唐士乃

花子ありまう夢の小蝶乃望
 つもあまの世の中ぞありある
 ちそめあり世とひあうけうさう
 めもうげさうの光源氏乃ちあ
 蝶乃蝶人多くあつたぬのみうさる
 金銀乃ちありまう山ぬきあ
 のまねさうまぬ花その小蝶を

古野
又やちい茶に秋まの虫さるる
らるらんとあまの首切りとさる
乃月色ゆへ入宮のうらみあま
秋まのともやしら寝かみわが
夏よりあまのこころとあまの
きえてあまのこころあまの
らよあまのこころあまの

上存
まのこころあまのこころあまの
そとありあまのこころあまの
わんわんあまのこころあまの
有程やれあまのこころあまの
あまのこころあまのこころあまの
花の色あまのこころあまの
あまのこころあまのこころあまの

用紙

蝶の姿をたづなり身こまよひる人
 へとへいづらぐり文書まがらりとをほの花
 の色隔ぬ梅よあうきりてハ蝶
 せざそりりきあまハ心ありて八重
 山吹もへそくぬ梅の花よさひハ心小

蝶の舞の姿もとらもみハ心きりさび
 西季物くろたさうハ心く梅ハ心心を
 うけまハ心くもがハ心宮ハ心乃可ハ心うハ心ま
 れうら野も程らハ心く野ハ心花ハ心黄ハ心身ハ心
 雲同ハ心をハ心まハ心りハ心しハ心花ハ心前ハ心よハ心まハ心舞ハ心えハ心
 くハ心るハ心るハ心雪ハ心とハ心めハ心らハ心くハ心舞ハ心のハ心袖ハ心くハ心るハ心
 くハ心もハ心雪ハ心白ハ心やハ心雲ハ心景ハ心殊ハ心のハ心花ハ心もハ心ほ

古物
 下回ニ
 きらくく
 花物おと枝をめぐりめぐり
 やお車入法よひうきらく
 お蝶もうめぐりぐみの葉の波を
 もやまののり雲もくちり
 物をけりて
 きててが環まきり

右之水者觀世太夫章句真本令版行畢

正徳六丙申歲弥生尚亦天保十一庚子歲孟春改正再版

示来荏苒數十年ニ星霜ヲ經ルニ從ヒ改正増補ヲ加ヘシモ印刷ニ

附セザレバ之ヲ世ニ公ニスル能ハサルヲ悲ミ今般

宮内省御用達觀世清孝ノ校合ヲ以テ茲ニ之ヲ上梓スト云

明治十一年十月 出版御届 内百十番

同 十二年三月 發兌 外六十二番

明治十二年九月 出版御届 別能

同 十三年三月 發兌 二十八番

明治十四年四月 出版御届

同 年 六月 發兌 京都府平民

同十六年十月 別能 繪 常之介

出版人

上京區第三十組二条通御幸町西へ
 丁子屋町北側

